

経済・金融 フラッシュ

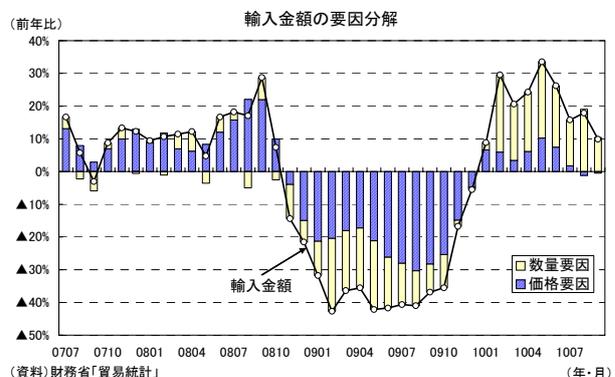
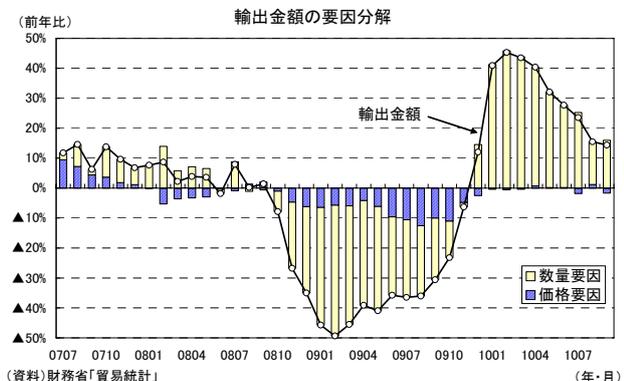
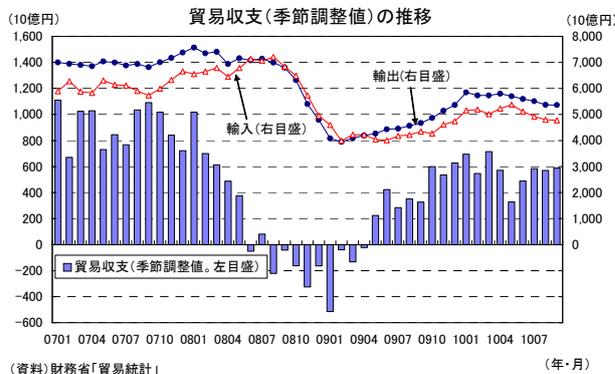
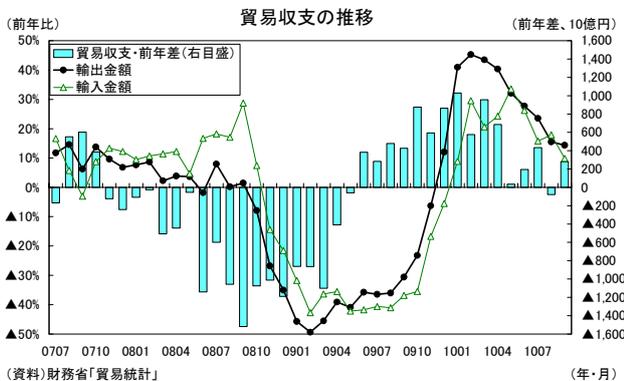
貿易統計 10年9月 ～7-9月期の外需寄与度はほぼゼロに

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易黒字は2ヵ月ぶりに前年同月を上回る

財務省が10月25日に公表した貿易統計によると、9月の貿易収支は7,970億円の黒字となり、事前の市場予想（ロイター集計：7,140億円、当社予想は5,535億円）を若干上回った。輸入の伸びが大きく鈍化する（8月：前年比17.9%→9月：同9.9%）一方、輸出の伸びは小幅な低下にとどまり（8月：前年比15.5%→9月：同14.4%）、輸入の伸びを上回ったため、貿易黒字額は2ヵ月ぶりに前年の水準を上回った。

季節調整済の貿易収支は5,876億円の黒字となり、黒字幅は前月の5,702億円から若干拡大した。円高の影響から輸出（季節調整値）は5ヵ月連続、輸入（季節調整値）は4ヵ月連続で前月よりも減少している。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比 16.1%（8月：同 14.2%）、輸出価格が前年比▲1.5%（8月：同 1.1%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比 10.4%（8月：同 19.1%）、輸入価格が前年比▲0.5%（8月：同▲1.0%）であった。

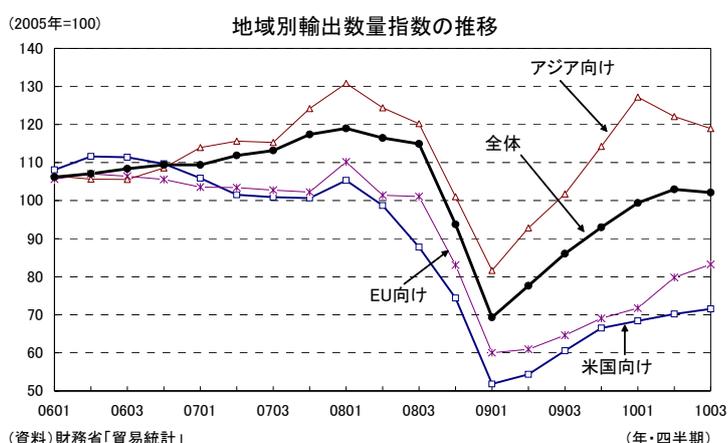
2. アジア向け輸出の低調が続く

9月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けは前年比 17.0%（8月：同 11.5%）、EU向けが前年比 29.2%（8月：同 26.7%）、アジア向けが前年比 14.6%（8月：同 14.6%）であった。

7-9月期の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前期比 1.9%（4-6月期：同 2.6%）、EU向けが前期比 4.3%（4-6月期：同 11.2%）、アジア向けが前期比▲2.6%（4-6月期：同▲4.0%）、全体では前期比▲0.8%（4-6月期：同 3.6%）となった。

米国向け、EU向けは上昇基調を維持しているが、それまで輸出の牽引役となっていたアジア向けが4-6月期に続いて低下し、輸出全体の低調につながっている。海外経済の減速、円高基調の継続を背景として、輸出は減速傾向を強めていると判断される。

一方、4-6月期の輸入数量指数（季節調整値）は前期比 1.5%（4-6月期：同 2.6%）と5四半期連続で上昇した。国内需要の持ち直しを背景に輸入は底堅さを維持している。



3. 7-9月期の外需寄与度はほぼゼロに

9月までの貿易統計と8月までの国際収支統計の結果を踏まえて、7-9月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出は前期比2%台半ばとなり6四半期連続で増加するが、4-6月期の同5.9%からは伸びが大きく低下することが見込まれる。一方、輸入は前期比3%程度（4-6月期：同4.1%）となり、輸出の伸びを若干上回ることになる。この結果、7-9月期の外需寄与度は前期比でほぼゼロ%となることが予想される（4-6月期の外需寄与度は前期比0.3%）。

当研究所では10/29に発表される鉱工業生産、家計調査等の結果を受けて、同日のweeklyエコノミストレターで7-9月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。これまで成長率を大きく押し上げてきた外需は前期比でゼロ近傍にとどまるものの、自動車、たばこの駆け込み需要などにより民間消費が高めの伸びとなることなどから、現時点では前期比年率2%台の成長率を見込んでいる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。